

二世安楽の御詠歌（安楽調）

松 濤 基 作曲

♩ = 50~60
mp



○ × ○ × × ○ × ○ ×
〔詠頭〕 の ち の よ も 〔斉唱〕 の ち の よ も



○ × ○ × ○ × × ○ × ×
こ の よ も と ー も に な ー む ー あ み ー だ ぶ ー



○ × ⊗ ⊗ ⊗ ⊗
っ ほとけまかせの ほとけまかせの



○ × × ⊗ ⊗ ○ × × ○ × ×
み ー こ ー そ や ー す け ー れ

二世安楽の御詠歌

後の世も この世もともに 南無阿弥陀仏 仏まかせの 身こそやすけれ
(無能上人御作)

無能上人(1683～1719)江戸中期の高僧。17歳で得度出家し、十万遍以上の日課念仏をつとめ、36歳で念仏のうちに入寂されました。この激しい修行中に多くの和歌を民衆伝道のために作られ、多くの人々を教化されました。

無能上人は、『いろは御和讃』などで「念仏行者は後の世は必ず往生して神通無碍^{むげ}の力が得られる。この世はみ仏のお護り導きの中に過ごさせていただき、一切帰依とお任せする時、うろたえ不安を越えて、安らかな信仰の世界が開けます」とお諭し下さいました。

- ・頼むぞよ 願う心はよわくとも 誓いの御手のつよき力を(無能上人御作)
- ・かりそめの 契りも今は法のはし またかえり来て西へわたさん(無能上人御作)
- ・南無阿弥陀 ほとけまかせの心には 思ひわつらふ事の端もなし(無能上人御作)

大意 後の世もこの世も共に南無阿弥陀仏と、仏様に任せ切ってお念仏申す身になってこそ、本当の安らぎがいただけます。

ポイント注意

- 半拍休止から立ち上がる声はアクセントしっかり。
- 二拍目から立ち上がる声はソフトに。